

日高市の概要

日高市は埼玉県の南西部、東京都心より約 40km 圏内に位置し、東は川越市、南東は狭山市、南は飯能市、北は坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町に接している。市域は、東西約 11.1 km、南北約 6 km で、ほぼ矩形をなし、総面積は 47.50 km² で、市域の 10% 強が市街化区域である。東部はなだらかな台地で武蔵野の面影が色濃く残る市街地となっており、西部は秩父山地と高麗丘陵による標高 100～300m の丘陵・山岳地帯である。そして東部の台地と西部の丘陵との間を清流高麗川が流れている。平成 3 年 10 月 1 日に埼玉県で 42 番目の市としてスタートした日高市は、平成 16 年 7 月 1 日現在、人口が 54,423 人、世帯数が 19,294 世帯で、近年の傾向としては人口がほぼ横ばい、世帯数は増加傾向である。

交通は、市の東部に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と国道 407 号が走っており、西部には国道 299 号が走り、県道川越日高線がこれらを結んで市の中央を横断している。鉄道は J R 八高線と J R 川越線、西武池袋線が乗り入れ、「武蔵高萩」駅、「高麗川」駅、「高麗」駅、「武蔵横手」駅の 4 駅を利用して、都心や八王子、秩父、高崎方面に向かうことができる。

なだらかな丘が連なる日高市の地形は、お茶の生育には最適で、昔からお茶の栽培が盛んに行われてきた。埼玉県の西部で生産されるお茶は「狭山茶」と呼ばれ、日高市は狭山茶全体の約 9% を生産している。また、「うど」や「高麗川マロン」等の特産品がある。観光名所として全国的に有名なのが、蛇行する高麗川がつくった「巾着田」で、9 月中旬から下旬にかけて約 100 万本の花開く「曼珠沙華」に、数十万人もの見物客が訪れる。

商業施設は、高麗川駅周辺に大規模小売店舗が集中しており、駅の東側にはヤオコー、ファッションセンターしまむら、ホームセンタービバホーム等が進出していたが、近年は駅の西側にオザム、ファミリーまるひろが相次いで進出している。また、圏央道の狭山日高インターチェンジ周辺エリアでは大規模流通業務施設や製造業等を営む企業の誘致を進めており、圏央鶴ヶ島インターチェンジを中心とする、川越市・鶴ヶ島市・日高市の三市にまたがった 500ha 規模の「むさしの研究の郷構想」エリア（日高市分約 200ha）では研究施設や先端技術産業系企業等の誘致を行う予定である。

日高市は、高麗川駅西口地区や武蔵高萩駅北地区等の土地区画整理事業や公共下水道の整備等都市基盤を着々と進め、一方では総合福祉センター「高麗の郷」を拠点とした福祉の充実、文化体育館「ひだかアリーナ」を拠点とした健康づくりと文化の向上、「生涯学習センター」を拠点とする生涯学習の充実等にも努めてきた。また、J R 川越線武蔵高萩駅の橋上化及び自由通路新設工事が平成 17 年 3 月完了予定で進行中であり、今後もさらなる発展が期待されている。

平成 16 年 7 月 12 日作成